

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	油とりクリーナー
製品の形状	濃縮原液
製造元会社名	Phase III inc.
住所	315 E.Warner Rd., Suite 3 Chandler, Arizona 85225 USA
サプライヤー会社名	株式会社バイオ・ジェネシステクノロジージャパン
住所	東京都港区赤坂3-21-15 東都赤坂ビル2F
電話番号	03-3560-3885
緊急時の電話番号	03-3560-3885
FAX番号	03-3586-3810
推奨用途	洗浄剤、脱脂剤、油分散剤

2. 危険有害性の要約

物質又は混合物の分類
GHS分類

皮膚刺激性	区分2(含有成分の一部)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2(含有成分の一部)
水生環境有害性(急性)	区分2(含有成分の一部)
水生環境有害性(長期間)	区分3(含有成分の一部)

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
皮膚刺激
眼刺激
使用前に特別の指示を受けてください。
全ての安全上の注意書きを読み、理解しないうちは取り扱わないこと。
取扱い後は手、前腕、露出した箇所を水で良く洗うこと。

注意書き

原液の環境への直接放出は避けること。
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。
皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激の懸念が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
汚染された衣類は脱ぎ、再度、着用する前に洗濯すること。
内容物、容器を地方自治体の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

その他の危険有害性情報

暴露によって、眼、皮膚、呼吸器の状態が悪化するおそれがある。

未知の急性毒性情報

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質

混合物

化学名又は一般名

CAS番号:

%(w/w)

GHS分類

①ラウリルジメチルアミンN-オキシド

1643-20-5

2.2

眼への損傷 2A 水性環境有害性(急性) 1

化学名又は一般名

CAS番号:

%(w/w)

GHS分類

②ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド

68603-42-9

2.4

皮膚刺激性 2 眼刺激性 2A

化学名又は一般名

CAS番号:

%(w/w)

GHS分類

③クエン酸

77-92-9

0.1-1

眼刺激性 2A :原料は可燃性の粉塵だが、本製品では水に溶解している。

化学名又は一般名

CAS番号:

%(w/w)

GHS分類

④イソプロピルアルコール

67-63-0

0.01-0.1

引火性液体 2 眼刺激性 2A 特定標的臓器(単回ばく露) 3

*組成を変える場合、濃度の範囲は必要に応じて管理製品規制の処方どおりに決めている。

4. 応急措置

(1) 応急措置の説明

一般的措置

意識不明の人には口から何も与えてはいけない。不調を感じたら、医師の診断を受ける(可能ならペルで表示しておく)。

吸入した場合

症状が発生したら、外気に当たり、原因場所の換気を行う。呼吸困難状態が続くようなら、医師の診断、手当を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。
患部をたっぷりの水で少なくとも15分間洗うこと。皮膚刺激性が強まったり、継続する場合は医師の診断、手当を受けること。

目に入った場合

目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断、手当を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。決して嘔吐を引き起こしてはいけない。医師の診断、手当を受けること。

(2) 最も重要な兆候及び症状

予想される急性症状及び遅発性症状

一般的症状

皮膚刺激性及び眼に対する損傷のおそれの疑いがある。

吸入した場合

長期間暴露すると炎症を起こすおそれの疑いがある。皮膚刺激性を引き起すおそれの疑い。症状の中には、赤み、痛み、腫れ、かゆみ、灼熱感、乾燥状態、皮膚炎が含まれる。

皮膚に付着した場合

目に入った場合

角膜、虹彩、結膜に損傷を与えるおそれの疑いがある。

飲み込んだ場合

副作用を起こすおそれの疑いがある。

慢性的症状

人間に対する利用可能な情報はない。

(3) 即座の医療行為及び特別注意事項	暴露するか、その懸念がある場合、医師の診断、手当を受けること。医師の診断が必要な時は、製品のSDSを持っていくこと。
5. 火災時の措置	
(1) 消火剤 使ってよい消火剤 使ってはならない消火剤	水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス棒状放水は火災を拡大させるおそれがある。
(2) 特有の危険有害性 火災の危険性 爆発の危険性 反応性	非可燃性 非爆発性 通常の状態では危険な反応は起きない。
(3) 消防士 火災の予防対策 消化方法 消火を行うものの保護 危険な燃焼生成物 その他 他のセクションの参照	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。化学火災に対処する時は、注意すること。暴露された容器を冷却する場合、水噴霧か霧を使用する。 空気呼吸器を含む適切な防護具を着用しないで、火災エリアに入ってはいけない。 酸化炭素(CO、CO ₂)、窒素酸化物、酸化硫黄 消火活動している現場から、排水口や水源への流入を防止する。 可燃性に関してはセクション9の「物理的及び科学的性質」を参照
6. 漏出時の措置	
(1) 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 一般的措置 非緊急要員のために ①保護具 ②緊急措置 緊急要員のために ①保護具 ②緊急措置	蒸気、ミスト、スプレーを吸入しない。眼に入れたり、皮膚、衣類への接触を避ける。 適切な保護具を装着する。 不要な人員を避難させる。 清掃する作業員に適切な保護具を装着させる。 漏洩エリアを換気する。現場に到着すると、最初に対応する者は、危険物の存在を認識し、本人及び一般人を防護し、現場エリアの安全性を確保し、状況が許せば速やかに訓練を受けた専門家の援助を受けること。
(2) 環境に対する注意事項	下水道や公共水域への原液の流入は避けること。原液を環境中に放出してはいけない。下水道へ放出する際は大量の水で希釈すること。
(3) 封じ込め及び浄化方法・機材 封じ込め 浄化方法	漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処分する。 漏洩物が流出し、下水道や川に流入しないよう、盛土・土嚢・吸着材などで封じ込める。 漏洩物を速やかに浄化し、安全に廃棄処理する。漏洩物は、適切な容器に回収し、廃棄処理する。漏洩後は当局に連絡する。
(4) 他のセクションの参照	セクション8の「暴露防止及び保護措置」、セクション13の「廃棄上の注意」を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

(1) 安全取扱い注意事項

①安全取扱い注意事項

食事、飲酒又は喫煙の前や退社する時は、手や露出した箇所をマイルドな石鹼と水で洗うこと。眼に入れたり、皮膚又は衣服に接触させないこと。使用する前には、特別の取扱い指示を得ること。全ての安全取扱い注意事項を読み、理解するまでは取扱わないこと。ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

②衛生対策

良好な労働環境衛生と安全な手順に従い取扱うこと。

(2) 安全な保管条件(不適合物質を含む)

①技術的対策

適用される規制に従うこと。

②保管条件

使用しないときは容器を密閉しておくこと。湿気のない冷乾所に保管すること。直射日光や、特に、極度の高温又は低温は避け、不適合物質と一緒に保管することも避ける。

③不適合物質

強酸、強塩基(強アルカリ)、強力な酸化剤

④保管温度

0~60°C

(3) 具体的な使用分野

洗浄剤、脱脂剤

8. ばく露防止及び保護措置

(1) イソプロピルアルコール(67-63-0)

管理濃度

200ppm

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2015年版)

最大許容濃度 400ppm、980mg/m³

ACGIH(2015年版)

TLV-TWA 200ppm

TLV-STEL 400ppm

人の発がん物質としては認められない

OSHA PEL

8H TWA 400ppm、980mg/m³

(2) ばく露防止

①設備対策

ばく露しやすい場所のすぐ近くに、緊急用の洗面器・流し・安全シャワーを設置する。特に、密閉されたエリアにおいては、十分な換気ができるようにする。国や自治体の基準を良く確認すること。

②保護具

保護手袋、防護服、防護用ゴーグルを着用すること。換気不足の場合は、呼吸保護具を着用すること。

③防護服の素材

化学的に耐性のある素材と布地のものを着用する。

④手の保護具

保護手袋を着用する。

⑤眼の保護具

ケミカルゴーグルを着用する。

⑥皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用する。

⑦呼吸器の保護具

ばく露限界を超えるか、刺激を感じる場合は、承認されている呼吸器保護具を着用する。換気不足の場合、又は、ばく露濃度レベルが分からない場合は、承認された呼吸器保護を使用する。

⑧その他の情報

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙はしない。

9. 物理的及び化学的性質

(1) 物理的及び科学的性質の基本情報

形状

液体

外観

オレンジ色の液体

臭い

青りんご

臭いの閾値

N/A

pH	7.5～8.5
蒸発速度	N/A
融点	N/A
凝固点	0°C(近似値)
沸点	N/A
引火点	>149°C(推定値)
自然発火温度	N/A
分解温度	N/A
燃焼性(固体、ガス)	N/A
可燃下限濃度	N/A
可燃上限濃度	N/A
蒸気圧	N/A
20°C相対蒸気密度	>1(Air=1)
相対密度	N/A
比重	1.02
溶解度	100% 水溶性
オクタノール・水分配係数	N/A
粘度	N/A
爆発に関するデータ: 機械的衝撃に対する感応性	機械的衝撃による爆発の危険性はない。
爆発に関するデータ: 静電気放電に対する感応性	静電気放電による爆発の危険性はない。

10. 安定性及び反応性

- | | |
|----------------|--|
| (1) 反応性 | 通常 of 取扱い条件において危険な反応性はない。 |
| (2) 化学的安定性 | 推奨する取扱い及び保管状態では安定である(セクション7を参照)。 |
| (3) 危険有害反応可能性 | 危険な重合は起こらない。 |
| (4) 避けるべき条件 | 直射日光、極度の高温又は低温、不適合な物質に混触。 |
| (5) 混触危険物質 | 強酸、強塩基(強アルカリ)、強力な酸化剤。 |
| (6) 危険有害な分解生成物 | 熱分解生成物が発生する。酸化炭素(CO,CO ₂)、窒素酸化物、硫黄酸化物。 |

11. 有害性情報

- | | |
|--------------------|---|
| (1) 毒性情報-製品 | |
| ①急性毒性 | 分類できない。 |
| ②LD50及びLC50に関するデータ | N/A |
| ③皮膚腐食性・刺激性 | 皮膚刺激が生じるおそれの疑いがある。 |
| ④pH | 7.5～8.5 |
| ⑤眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 | 眼に対する重篤な損傷を起こすおそれがある。 |
| ⑥呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 分類できない。 |
| ⑦生殖細胞変異原性 | 分類できない。 |
| ⑧催奇形性 | 分類できない。 |
| ⑨発がん性 | 人に対する利用可能な情報はない。 |
| ⑩特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 分類できない。 |
| ⑪生殖毒性 | 分類できない。 |
| ⑫特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 分類できない。 |
| ⑬吸引性呼吸器有害性 | 分類できない。 |
| ⑭吸入後の症状・傷害 | 長期間ばく露すると刺激が生じるおそれの疑いがある。 |
| ⑮皮膚接触した後の症状・傷害 | 赤み、痛み、腫れ、かゆみ、焼け付き、乾燥、皮膚炎などが発生するおそれの疑いがある。 |
| ⑯目に入った後の症状・傷害 | 角膜、虹彩、結膜に対する損傷が発生するおそれがある。 |
| ⑰飲み込んだ後の症状・傷害 | 副作用が生じるおそれがある。 |

⑩慢性的症状

人に対する利用可能な情報はない。

(2) 毒性情報-成分

LD50及びLC50データ

①ラウリルジメチルアミンN-オキシド
LD50 経口 ラット

1643-20-5

ラットを用いた経口投与試験のLD>7450mg/kg (CERIハザードデータ集 2001-26(2002))に基づき区分外

LD50 経皮

データなし。

②ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド
LD50 経口 ラット

68603-42-9

ラットのLD50値として、12,200mg/kg>5,000mg/kgとの報告(HSDB (Access on July 2015))に基づき区分外

LD50 経皮

データ不足のため分類できない。なお本物質の一般流通商品でのウサギのLD50値として、>2,000 mg/kgとの報告 (HSDB (Access on July 2015))がある。

③イソプロピルアルコール
LD50 経口 ラット

67-63-0

ラットのLD50=4,384 mg/kg (EPA Pesticides (1995))、4,396 mg/kg (EHC 103 (1990))、4,710 mg/kg (EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012)、SIDS (2002))、5,000 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006))、5,045 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006))、5,280 mg/kg (EHC 103 (1990)、SIDS (2002))、5,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、5,480 mg/kg (EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012))、5,500 mg/kg ((EHC 103 (1990)、SIDS (2002))、5,840 mg/kg (PATTY (6th, 2012)、SIDS (2002)) に基づきウサギのLD50=12,870 mg/kg (EHC 103 (1990)、(PATTY (6th, 2012)、(SIDS (2002)) に基づき、区分外。

LD50 経皮 ウサギ

LC50 吸入 ラット

ラットのLC50 (4時間) = 68.5 mg/L (27,908 ppmV) (EPA Pesticides (1995))、72.6 mg/L (29,512 ppmV) (EHC 103 (1990)、SIDS (2002)) に基づき、区分外。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度 (53,762 ppmV (25°C)) の90%より低いため、分類にはミストを含まないものとしてppmVを単位とする基準値を適用した。なお、今回の調査で入手したEPA Pesticides (1995) のデータを根拠とした。今回の調査で得たより信頼性の高い情報源から分類した

④クエン酸
LD50 経口 マウス

77-92-9

LD50=5,040mg/kg 生体内に広く存在し毒性は低いため、区分外とした。

LD50 経皮

データがないため、分類できない。

LC50 吸入

データがないため、分類できない。

12. 環境影響情報

(1) 製品

製品の成分の中でラウリルジメチルアミンN-オキシドのみ水生環境有害性(急性)で区分1となっているが、希釈して使用する本製品中のラウリルジメチルアミンN-オキシドがErC50=0.081mg/L未満となるためには、30倍希釈液の場合は使用している希釈液の約9倍以上、60倍希釈液の場合は約4.5倍以上の希釈液にして流せば、河川などの公共水域に流出しても、さらに大きく希釈されるとともに、急速生分解性があるため、水生環境に対する有害性は解消される。

①ラウリルジメチルアミンN-オキシド
水生環境有害性(急性)

1643-20-5

藻類(セテナストラム)の24-72時間ErC50=0.081mg/L (CERI・NITE有害性評価書(暫定版)、2006)から、区分1。

水生環境有害性(長期間)	急性毒性が区分1であるが、急速分解性があり(BODによる分解度:63%(既存化学物質安全性点検データ))、生物蓄積性に関する信頼できるデータが得られていないため、分類できない。
②ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド	68603-42-9
水生環境有害性(急性)	分類実施中(適切なデータが得られておらず、分類できない)
水生環境有害性(長期間)	分類実施中(適切なデータが得られておらず、分類できない)
③イソプロピルアルコール	67-63-0
水生環境有害性(急性)	魚類 ヒメダカ LC50>100mg/L/96H(環境省生態影響試験(1997))に基づき区分外。
水生環境有害性(長期間)	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L(PHYSPROP Database)、急性毒性が低く、急速分解性(BODによる分解度86%(既存点検 1993))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC>100mg/L(環境省生態影響試験 1997、環境省リスク評価 2008)があることから、区分
④クエン酸	77-92-9
水生環境有害性(急性)	魚類(ブルーギル) LC50=1,546mg/L/96h 水生生物に対して有害性が低いので区分外。
水生環境有害性(長期間)	水に溶解易く、急性毒性が区分外。また急速分解性で(分解度:77 % by BOD、100 % by TOC(経産省既存化学物質安全性点検))、生物蓄積性は低い(オクタノール/水分配係数=-1.7)ことから区分外。
13. 廃棄上の注意	
(1) 廃棄物処分方法	
残余廃棄物	内容物・空容器は関連法規及び地方自治体の基準に従って廃棄する。
残余容器及び包装	容器及び包装材は関連法規の基準に従って適切に廃棄する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
生態環境と廃棄物	本製品の原液は水性環境・下水道・水路に直接流入させないこと。流入させる場合は[(12)-(1)製品]の内容を遵守すること。
14. 輸送上の注意	
国内規制	
陸上輸送情報	消防法、道路法に従う(ただし非危険物)。
海上輸送情報	船舶安全法に従う(ただし、非危険物)。
航空輸送情報	航空法に従う(ただし非危険物)。
特別の安全対策	「7 取り扱い及び保管上の注意 (2)安全な保管条件」の記載内容に従うこと。運搬に関しては容器からの漏出がないことを確認し、転倒・落下・損傷に注意し、積み込む際には荷崩れのないよう十分気を付けること。
その他	危険物ではないので混載が可能。
15. 適用法令	
労働安全衛生法	
名称の表示・通知義務	該当しない。
特定化学物質障害予防規則	該当しない。
有機溶剤中毒防止規則	該当しない。

がん原生に係る指針対象物質 強い変異性が認められた化学物質 毒物及び劇薬取締法 化学物質管理促進法(PRTR法)	該当しない。 該当しない。 該当しない。 ラウリルジメチルアミンN-オキドは成分としては第1種 指定化学物質
消防法 化審法	該当しない。 ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド、イソプロピルアルコール は成分としては優先評価化学物質
悪臭防止法	該当しない。
大気汚染防止法	該当しない。
水質汚濁防止法	該当しない。
土壌汚染対策法	該当しない。

16. その他の情報

この情報は作成の時点で現在の知見により、健康面、安全面及び環境要件だけの目的から製品に関して記載しており、全ての情報を網羅しているものではありませんので、必ずしも十分ではなく、何ら保証をなすものではありません。今後、新しい知見に基づき改訂される場合があります。取り扱い注意事項は通常の取り扱いを前提にしております。ご使用の際はSDSに記載されている注意事項を遵守した安全対策の上、十分注意して使用して下さい。

最近の改訂日：2020年4月9日